



イノベーション立国日本プログラム 第一回会議レポート

イノベーション立国日本プログラムが始動。 この会議で日本を変える ～失われた30年を取り戻す～

📅 2023.6.28(Wed) 15:30-18:00 📍 AKKODiS innovation Lab.



北原 秀文
AKKODiSコンサルティング株
式会社/取締役 兼 Chief
Operating Officer



桜谷 慎一
プログラムディレクター



瀬戸 和信
AKKODiSコンサルティング株
式会社/執行役員、Chief
Marketing Officer 兼 マー
ケティング本部長



小杉山 浩太郎
Adecco Group Japan/
Head of Sustainable
Transformation/ESG

6月28日（水）、現在プレオープン中のAKKODiS innovation Lab.で「イノベーション立国日本プログラム」の第1回会議を実施しました。当日は事業企画や新規事業運営などの業務に携わる19社約30人の有志が参加し、バブル崩壊後から続く「日本の失われた30年」を取り戻すためのアイデアや改善策について、グループワークを通じて議論を深めました。9月までの計4回のグループワークを「Phase1（立ち上げ期）」と位置づけ、日本の抱える問題点を洗い出して解決の糸口を探ります。10月以降は「Phase2（プロジェクト発足）」とし、社会課題の解決をリードし、具体的な解決策を提案する活動を開始する予定です。



過去を捨てて、新しい時代をつくろう



冒頭、AKKODiSコンサルティング株式会社（以下、AKKODiS）取締役 兼 Chief Operating Officerの北原秀文が開会の挨拶にてこの30年間、世界の時価総額の高い企業が金融、通信からIT関連の企業に変わっているのに対し、日本の産業の中心が変わっていないことに触れ、「過去は捨て、新しい時代をつくる必要がある。企業の壁を取り払い、今自分に何ができるかを考え、日本を変えていく取り組みにしていきたい」と呼びかけました。続いて本プロジェクトのプログラムディレクターを務める桜谷慎一からは、「業界の枠を超えて日本を変えていくという意識が大切」と話した後、ファシリテーターとして参加する、マーケティング活動において豊富な経験を持つ瀬戸和信とサステナビリティ経営が専門の小杉山浩太郎もそれぞれ意気込みを伝えました。

多種多様な集団からブレイクスルーが生まれる

桜谷の進行で各企業担当者が交わる形で6つのグループを形成し、参加者一人ひとりが日本の抱える重要な課題3点を付箋に書き記し、それぞれグループ内で発表しました。そして各自が持ち寄った課題をさらに厳選して、各グループ3点を抽出し、集まった18点のアイデアを全員で3点まで絞り込み、最終的に「少子高齢化」、「ビジョンをつくるコミュニケーション」、「首都圏集中と地方の弱体化」が重要な日本の課題として、本プロジェクトでは解決に向けて動き出していく事案として選ばれました。



候補として出た日本の課題

少子高齢化、人口減少、オーナーシップの欠如、既得権益、経済の低迷、格差の拡大、非効率、生産性の低さ、コミュニケーションの在り方、少子化に伴う人口減少、ビジョンをつくるコミュニケーション、人間力、地方の衰退と食品自給率低下、経済の低迷によって、働く人が自信を喪失している、労働力減少で生産が維持できない、首都圏集中と地方の弱体化、人口減少、特に若年層の人口減、教育の多様化に欠ける、国際的に見た大学の魅力減



各チームの取り組むテーマ



少子高齢化



**ビジョンをつくる
コミュニケーション**



**首都圏集中と
地方の弱体化**

問題のシステム思考化が解決につながる

テーマが3つに絞られた後、各チームがその課題に潜む問題点について、議論を深めていきました。ここで重要なポイントはシステム思考※であると桜谷は説明。目先の課題を解決して終わるのではなく、その裏に潜んでいる見えない新たな問題点を見つけ、解決することが課題の改善に効果があると解説しました。

※複雑な状況下で変化にもっとも影響を与える構造（システム）を見極め、さまざまな要素のつながりと相互作用を理解すること



システム思考のもと課題構造の可視化を行い、表面化している課題と根本原因の因果関係を見極め、1枚の模造紙に因果関係が描かれた表が作成されたところで第1回のグループワークは終了しました。次回以降もグループワークで問題の解決に取り組んでいく予定になっています。

ビジネスだからこそ、インパクトを起こせる

初回を終え、桜谷は「大きな活動にしていく機運を醸成できた」と手応えを感じつつ、「イノベーションはビジネスだからこそ、インパクトを起こせる。最終的に共創しながら新しいビジネスを巻き起こすきっかけをつくる活動にしていきたい」と意気込みを新たに第1回目のプログラムを締めくくりました。

自社の事業戦略や企画に役立てるためプログラムに賛同したという参加者からは「真の問題点」を抽出する作業は今の仕事でも活用できると思った」と今回のプログラムに充実感を感じている様子で、今回のプログラムで「日本を良くするきっかけづくりをしたい」と力を込めました。



第1回目のグループワークは、「この国の『失われた30年』を取り戻す。」という本プログラムのゴールに向けて、第一歩を踏み出す機会になりました。今後も建設的な議論が進み、革新的なアイデアと企業間の共創を通じて、「日本を課題解決先進国」へと導く活動を継続していきます。

この国の「失われた30年」を取り戻す。

イノベーション立国日本プログラム

